

ブラジル金融政策（2026年8月）

4会合連続の利下げ

2026年8月6日

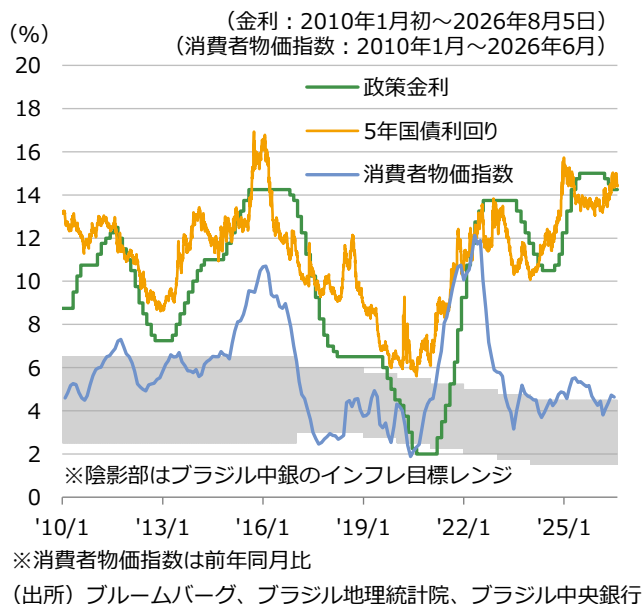
不確実性が高い中、次回も利下げの是非が慎重に判断される見込み

ブラジル中央銀行は8月4～5日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を14.25%から14.00%に引き下げることと決定しました。利下げは4会合連続です。

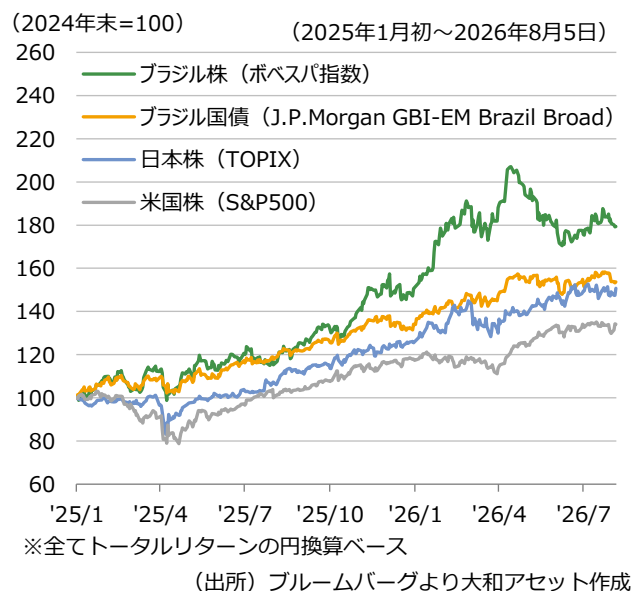
前回会合以降に発表されたデータは経済活動が徐々に鈍化していることを示唆し、ブラジル中銀は「今年を通じて経済の減速傾向が続くという見通しと整合的」と評しました。また、インフレ率（消費者物価指数・前年比）の実績は、5月の+4.7%に対して、6月が+4.6%、7月前半が+4.5%と市場予想を下回って低下しました。ブラジル中銀は、今会合から金融政策のターゲットとなった2028年1-3月期のインフレ率の予想を+3.2%としており、目標（3±1.5%）の中心を若干上回る程度にとどまっています。これらは、不確実性が高い中でも金融政策の引き締め度合いを幾分緩和する余地を与えたと言えます。

国内外で先行き不透明な状況が続く中、次回の方針に関して声明文に具体的な言及はありませんでした。ブラジルでは今年10月に大統領選挙があります。右派勢力の分裂を背景に、世論調査ではルラ現大統領の優勢が伝えられています。ルラ氏の再選期待が高まる局面では、財政悪化が懸念される場面もありましたが、足元では選挙後に向けて政府が財政ルールの厳格化を議論しているとも報じられており、拡張的な財政政策が続くとの懸念は若干和らいでいます。選挙直前となる次回9月の会合でも利下げが決定されるかは不透明ですが、選挙を通過し、財政健全化の道筋が見えてくれば、利下げを進めやすくなるでしょう。

ブラジルの金利とインフレ率



各資産の推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management